

- 問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
- 編集 公民館報編集委員会
- 印刷 株式会社プラト

公民館報 まつもと

発行
2022
7/30

松本市立博物館分館
松本市 四賀化石館
MATSUMOTO CITY SHIGA FOSSIL MUSEUM



関連記事6面

シリーズ デジタル化 〈第3回〉

豊かで快適な未来へ

「デジタルシティ・松本」に向かって進んでいる松本市のデジタル化。そこにどんな便利な社会が待っているのでしょうか。

デジタル化の定着は慎重に

これからは市役所窓口での諸手続きも、あえて出向くことなく、混雑を避けて自宅での簡単な操作でできるようになります。しかし、現時点では誰もがスマホやパソコンを持ち、活用ができるというわけではありません。

松本市では「誰一人取り残さない」ように、インターネットなどの情報技術を利用できない方への対応を考え、公民館での講習会なども実施しています。しかし、習得の機会を設けるだけでは根本的な解決にはつながりません。また、十分にICT(情報通信技術)を活用している世代であっても、顔が見えないやり取りに不安を感じている方もいるようです。人との温かみある関わりを残す工夫と、孤立化しない配慮が望まれます。



スマホ体験講習会(7月8日白坂地区公民館にて) 講習会は毎月2回、各地区公民館で開催されます。

適応性が高い子どもたち

松本市では市立小中学校に1人1台の学習用端末を整備し、令和3年度からは、鉛筆やノートなどと並ぶ「新しい文房具」として端末を活用しています。子どもたちは大人以上にデジタル技術を使いこなし、将来的に情報社会に対応できる力を備えた人材になることが期待されます。

まだ課題もあるかと思われませんが、今後「教育のデジタル化」が進めば、一人ひとりの個性を尊重する学びの実現も可能と言われています。それは「デジタル化」のメリットであり「豊かな生活」にもつながることでしょう。

人にも社会にも 価値あるデジタル化

百回のメールのやり取りよりも、わずかな時間でも顔を合わせての会話に大きな意味があることを私たちは知っています。「デジタル化」の推進によってもたらされる快適な未来はもうすぐそこにあり、社会課題の克服に向けて必要なことであることも確かです。その中で、一人ひとりが豊かさや幸せを感じられるまちを目指し、人と人とのつながりを大切にした「デジタルシティ・松本」でありたいものです。



少し先のデジタルの担い手(旭町小学校)

わがまち自慢(四賀地区) バラ公園 新設の公園では、広い緑の空間のなかで たくさんバラに囲まれて

市営四賀球場の西駐車場下側、四賀支所の北東の高台にバラ公園があります。約千㎡の庭園に300本あまりの色とりどりのバラが咲き誇り、アーチや西洋風あずまやにベンチなどが配置された、自然を大切にしたいイギリス式庭園風です。

バラ園の誕生は、2020年地元有志の『四賀元氣プロジェクト』が計画しました。植えられたバラは、寿豊丘の百瀬茂さんが育てた多くの

種類のバラを手放すことを知り、譲り受けたものです。

バラの苗は四賀市営球場の緑化管理をしていた会社で管理養生をしてもらいました。庭園整備・植え込み作業などたくさんの方の協力を得て、今年の開花を迎えました。

四賀地区には、国内最大級の福寿草の群生地があります。プロジェクトメンバーや住民はバラ公園とともに『花の里』として四賀が知られ発信してゆくことを期待しています。



来年はもっとあでやかに皆さんをお迎えます

視点

⑦ 学生と住民のたまり場
信州大学
ロッピキ

たまり場「ロッピキ」

信州大学の学生グループ「ロッピキ」は、大学近くにある空き家を学生が中心になってリノベーションし、学生や住民、誰もが集える、シェア・コミュニティスペースづくりに取り組んでいます。活動は2016年から始まり、今年6周年を迎えました。現在は、月曜日と金曜日を中心に、誰でも気軽に使える「OPEN DAY」や映画鑑賞会などを企画しています。

また、ロッピキは場所の活用を目的に、貸しスペースとしても利用ができます。ミーティングや作品の制作、フリーマーケットなど、さまざまな学生グループがロッピキを活用しており、学生グループの活動拠点になっています。

「ロボでつながる」

他団体とのコラボにも積極



訪れた人の足跡「ロッピ木」

的です。代表の鈴木七海さんは「面白いことをやっている団体、面白い人をロッピキに呼んで、一緒に学びたい」と話し、コラボがきっかけでそれぞれの活動の輪が広がることを大切にしています。

先月には、「ゆうぐれの箱」と題し、古本屋、珈琲屋とコラボして誰でも気軽に参加できる読書会を行いました。コラボ企画を通して、ロッピキが他の団体の活動を紹介する場になり、学生同士の新たな交流の機会を作り出します。

地域に灯る明かり

暗くなるにつれ、ロッピキからの漏れ光が通りを照らします。鈴木さんは「通りに電気が点いている家があると地



読書会の様子、使い方は人それぞれ

域に活気が生まれる」と述べ、ロッピキが地域に活気を取り戻す明かりになることを目指します。

ロッピキは、学生、住民関係なく誰もが利用できる場であり、過ごし方も人それぞれです。何気なく集まった人たちが交流しつながることで、ロッピキがその人の居場所になり、多様な灯りを発します。

令和4年度 新任公民館職員

- 公民館長 中央 石川 善啓
- 第三 武井 保典
- 城北 小岩井 成人
- 大手 遠藤 彰
- 和田 萩原 良治
- 安曇 大野 修
- 公民館主事 中央 酒井 謙一
- 第一 朝倉 光貴

- 第二 栗田 幸信
- 東部 古謝 彰貞
- 城東 三澤 孝吉
- 白板 片桐 史門
- 庄内 小林 大
- 中山 宇治 樹
- 神林 丸山 貴大
- 笹賀 矢口 竜也
- 奈川 竹村 夕馬
- 美鈴

令和4年度 館報全市版編集委員

- 第一 山内 敦子
- 第三 上條 恒嗣
- 東部 小澤 智浩
- 城北 吉見 隆男
- 中央 澤柳 秀子
- 安原 大和 靖
- 城東 浅田 達夫
- 白板 高山 剛正
- 庄内 大野 彰孝
- 鎌田 南雲 榮子
- 松南 藤森 俊男

- 島内 川上 弘
- 中山 真次 敬子
- 島立 上條 貴志子
- 新村 山口 茂
- 和田 塩原 真由美
- 神林 藤澤 良彦
- 笹賀 窪田 守
- 寿台 上平 貴明
- 松原 江藤 弘子
- 岡田 曾根 原 忠芳
- 増沢 豊

- 入山 大澤 深志
- 里山 浅海 智広
- 今井 中村 朗
- 内田 酒井 洋
- 本郷 杉江 夏実
- 四賀 松村 京子
- 安曇 赤穂 武美
- 梓川 森 鉄雄
- 波田 古田 豊樹
- 大学生 工藤 太陽



通勤途中に見る北アルプスで好きな景色は雪の北アルプス。降り始めの頃の姿から、だんだんと雪が増え姿を変えていく北アルプスの変化を見るのが日課のようになり、毎年この雪はいつまであるのか?と思いつつまであるのか?と思いつつながら職場へと向かう▼冬の晴れた日に雪の北アルプスを見ると元気をもらい「今日も1日頑張ろう!」そんな思いになる。時にはこのまま白馬まで行きたい思いになることも。そんな北アルプスの雪も少なくなってきた▼初冠雪から変わり行く北アルプスを見るのが楽しみとなり、同じようだが毎日違うように見える北アルプスを写真に収めることも。春になりひと雨ごとに雪がなくなっていくのを見ると寂しくなるが、里では雨でも山は雪ということもあり雪が増えることも▼そんな北アルプスも冬の山から夏の山へと変わりつつある。まだ山には雪はあるが梅雨が終わる頃にはなくなってしまうだろう。寂しいものがあるが夏の北アルプスは冬の北アルプスと違った姿を見せてくれるので飽きることはない。

おこひる

歴史探訪 探ろう松本 29

いつの時代も重要な拠点 四賀地区

交通の要衝

四方を山に囲まれ、会田川・保福寺川が流れる四賀地区は、古くから嶺間と呼ばれ、縄文時代中期からの遺跡が発見されています。朝廷により東山道・錦服駅が置かれたと言われており、交通の要衝として栄えました。

鎌倉時代には伊勢神宮御料地である会田御厨が置かれ、小県地方から進出した会田氏が地頭となりました。虚空蔵山を中心に山城を造り、長きにわたりこの地を治めました。

江戸時代には善光寺道(北国西脇往還)や江戸道(保福寺道)が通り、刈谷原宿・会田宿・保福寺宿が置かれ、江戸中期以降は幕領に編入され、明治を迎えました。

明治初期、27カ村からなっていました。1889年の町村制施行により、錦部・会田・中川・五常の4カ村



虚空蔵山の斜面に建てられた岩屋社

となりました。昭和30(1955)年、町村合併促進法により合併し、4カ村の合併を賀すという意味を込め「四賀村」と名付けました。

文化財の宝庫

昭和11年に発見されたクジラの化石が穴沢に現地保存され、化石館には1300万年前のマッコウクジラの完全化石が展示されています。

幕領であったため、廃仏毀釈の影響を受けず、寺院や仏像が数多く現存します。鎮守神28社、寺院10、小祠・社殿約500、堂7などがあり、石造文化財においては2900基にもおよびます。

新しい風

四賀地区は、人口4139人1899世帯(7月1日現在)、27町会で構成されています。

都会から若者の移住希望も多く、空き物件待ちの状況です。多くのアーティストも移り住んで来ました。新旧の住民が集う「結ぶ市」も盛況です。新しい文化の拠点の、これからが楽しみです。



大規模な「大結ぶ市」は年4回開催

松本平の野鳥たち

ガビチョウ (2021.10 松本市・里山辺 写真提供:信州野鳥の会)

近年各地で分布拡大しており、松本市内でも高密度で観察されている鳥類の「特定外来生物」です(2005年に指定)。大きさはスズメの倍くらい。藪を好み、姿を見る機会は少ない。留鳥化し1年を通じてかなりやかましく囀り、何の鳥の声?との問い合わせが多い。

表紙について

絶景の峠道や練習コースなど、松本市はオートバイを楽しむ環境に恵まれています。無理せず急がず、風を切って走った後は、お気に入りの場所でコーヒープレイクです。

(撮影 2022.6.19 松本市四賀地区)



令和4年7月1日現在	
世帯数	2,898 世帯
男	3,267 人
女	3,418 人
総人口	6,685 人

島立小学校 運動発表会

島立小学校の運動発表会が6月4日(土)に開催されました。今年度も連学年による3部構成となり、児童の皆さんは練習の成果をそれぞれ発表し、参観に訪れた家族は日々の成長を感じながら、温かく見守りました。

低学年運動発表会

1年生の玉入れでは、身長倍以上ある高さのカゴに向かって一生懸命に玉を投げ入れる姿が印象的でした。

2年生の表現「ソイヤ」では、赤い衣装に身を包み、躍動感溢れる姿を披露していました。



中学年運動発表会

3年生の短距離走から始まり4年生に続きました。力強さスピードも加わり見ているほうも力が入ります。

3年生の団体競技は「台風の目」です。赤白に分かれてスピードを競いますが、2回とも接戦でほんの少しの差でした。

4年生の表現はダンスですが全員の動きが決まり、思わず見入ってしまいます。

全員での練習量も思うようにできなかったと思います。が、よくここまで仕上げたものだと感動しました。



高学年運動発表会

最後に登場したのは5、6年生。凛とした緊張感ある佇まいから活躍を予感させます。保護者の方々が見守る中、競技が始まりました。

まずは短距離走。5年生は初めてのクラウチングスタートです。仲間を応援する拍手や声援がグラウンドに響いていました。

続いて6年生。小学校生活を共に過ごしてきた、このグラウンドでの最後の短距離走です。それぞれの思いを胸に



ひまわり



全力で駆け抜ける姿に胸を打たれました。

去年に引き続き行われた組まなみ体操。ブリッジやバランス立ちなど、個々の演出の後、クライマックスには全員がサークル状になり見事な噴水を表現していました。

続くフラッグダンスでは、全員が黄色と水色の2色の旗を両手に持ち、音楽に合わせて整然とそろったダンスを表現していました。皆が一斉に旗を振る、その切れのある音がグラウンドにこだまし、高学年の力強さを感じました。

日々の練習の成果が運動会の成功へと繋がり、観ている人たちがみんなが惹き付けられました。

来年は、5年生は最高学年に、6年生は中学生へとそれぞれ進級・進学します。運動発表会を通して得た仲間との一体感や達成感を糧に、今後の子どものたちのさらなる飛躍を期待しています。



北栗門球大会 熱中競技中

栗林フラワーガーデン

6月11日(土)、南栗町会のボランティア有志が「島立南栗北」交差点のそばにある花壇の花植えを行いました。

当日は、小学生のジュニアボランティアも加わり、約20人が作業を行いました。また、花壇には中学生が名付け、イラストを描いた「栗林フラワーガーデン」の看板が立てられました。植えられた色とりどりの花は、信号待ちの車中からもご覧いただくことができます。近くをお散歩される際にもぜひお立ち寄りください。



爽やかな汗をかこう



島立体育館でのスポーツ活動紹介です。コロナ禍の自粛を経て、徐々に活動が再開してきた6月下旬にお邪魔しました。

この日はバドミントンと卓球が行われていました。「島立バドミントンクラブ」は、毎週木曜日の19時〜21時に活動があり、3面あるコートを使って15名ほどの人が集まります。

当初は50・60代が主でしたが最近では青年層も増え、島立地区以外からも参加者のいるアットホームなグループです。シャトルが消耗されたら集金するのみにて、半年に二千円弱で済むのでストレス発散に最適、初心者・経験者大歓迎とのことでした。



「卓球をしよう」はスポーツ協会が主体となっており、毎月偶数木曜日の19時半〜21時に活動しています。島立の卓球人口の裾野を広げるきっかけ

になればと願い、初心者・経験者を問わず募集中です。練習台は4面あり硬式卓球とラージボール卓球のどちらの道具も貸し出して貰えるので、スポーツができる格好で来てくれるだけで大丈夫の事です。興味をもったタイミングで、「今晚は！」と声を掛ければすぐに始められる雰囲気です。

昨年まで小学生も多数参加をしていたので、「若い方々も是非来て体験して貰いたい。」そうです。



翌日は毎月第4金曜日に行われている「スポーツをしよう」にも参加してきました。

島立の各地区持ち回りで当番を行い、子ども達の憩いの場を作っています。平成26年以降、島立体育館に集まった小学生が次の友だちを誘ったり、順々に次学年が入ってきたりしながら連続と続いてきました。昨年の11月以降活動休止をしていましたが、今年5月に再開し、20名程度の参加者が集まっています。

親子で参加する小学生、他校に分かれた友だちと再会す

中高生と多彩で、バドミントン、卓球、バレーボール等の道具を自由に借りられるので、思い思いに友だちを誘って遊ぶことができます。会場は笑いに満ち溢れていておしゃべりや夕涼みをしているのが印象的でした。



ただいま成長中



きゅうりを狙う泥棒

福祉ひろば「ものづくりの日」

6月16日(木)、島立地区福祉ひろばで「マスコットふくろうづくり」が行われ、7人が参加されました。福々しい身体で福を招くという思いが込められていくそうです。参加者は「前は苦戦したけど、今回は最後までできた！」と喜んでいました。



体力づくり講座「フィットネスタイチー」

島立地区福祉ひろばで、毎月一回行われている体力づくり講座。6月は「フィットネスタイチー」講師はヨガスタジオ主催の田中花さんです。

太極拳(タイチー)を取り入れた、流れるような動きが特徴の体操です。音楽に合わせてゆっくり、軽やかに・静かに動く、誰でも親しみやすいフィットネスエクササイズです。



はじめに、田中さんの説明を聞きながらゴルフボールを足裏でゆつくりと転がし、ツボを刺激していきます。次に

上半身や股関節のストレッチ、体幹を使ったバランス運動をしていよいよタイチーのスタートです。田中さんの動きと音楽に合わせて動きを覚える頃には、スムーズに出来るようになっていました。参加者に感想を伺うと、体を動かす事が気持ちいい、皆と話をしながら、何より楽しいと話していました。